

修士論文(要旨)

2012 年 9 月

日本語の対称詞の用法
—シナリオを資料として—

指導 新屋映子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

209J3907

林 莉

目次

第一章 研究背景と目的	1
1.1 研究背景と目的	1
1.2 先行研究	2
第二章 研究方法	7
第三章 調査結果	7
3.1 対称詞の出現数	7
3.2 社会名称	18
3.2.1 代名詞的用法	18
3.2.2 呼格的用法	21
3.3 家族関係における対称詞の使用	24
3.3.1 代名詞的用法の家族関係における対称詞	24
3.3.2 呼格的用法の家族関係における対称詞	26
第4章 考察	27
4.1 代名詞的用法の分析	27
4.2 呼格的用法の分析	49
4.3 まとめ	51
第5章 終わりに	54
資料	55

参考研究・引用

研究背景と目的：

日本語の人称代名詞の使いにくさは、一般によく言われることである。日本語の対称詞に限っても「あなた」、「あんた」、「君」、「お前」など多様である。どの対称詞を使用するかは、話し手と聞き手の関係、話題、場面など、コンテキストに依存するところが大きく、対称詞の不適切な使用は人間関係を損なう要因にもなりかねない。中国語を母語とする稿者は、日本語でも母語の言語習慣のままに対称詞「あなた」を頻繁に使用してしまい、日本語母語話者とのコミュニケーションに支障をきたした経験がある。稿者はそうした自らの体験や見聞した事例から日本語の対称詞に関心を持つようになり、その使い分けを研究するに至ったものである。

対称詞の使用に関わる要因として「待遇表現」と「ジェンダー」がある。本研究では、話し手の心理状態によって同一対象に使用する対称詞が変化する様相を、待遇表現とジェンダーという両側面に着目し、分析・考察する。研究目的は以下の2点である。

- 1) 話し手と聞き手の社会的地位、年齢、親疎などの側面に着目し、日本語の対称詞使用の様相を明らかにする。
- 2) 現代日本語の会話表現において、ジェンダーによる対称詞使用の差がどのように現れているか、その実態を明らかにする。

研究方法：

日本語対称詞の使用実態に対する分析を行うため、テレビドラマのシナリオを研究資料に選定した。調査の対象として望ましいのは自然会話を用いることであるが、現実的には様々な制約があり困難である。テレビドラマには様々な種類が存在するが、刑事物、医療物、ミステリー物などを中心とするものは除外した。そこで、本研究では様々な作品の中から登場人物の年齢・職業を考量し、日常的な場面が多いと思われる「パパはニュースキャスター」(1987)、「青い鳥」(1997)、「眠れる森」(1998)の3編を用いた。

結果及び考察：

シナリオ資料における男性話者の総発話数は6281例、女性話者の総発話数は5962例で、発話総数の12243例に対して人称代名詞の使用は615例であり、使用率は極めて低い。そのうち、男性の使用総数は466であるのに対し、女性の使用総数は149例に留まり、男性の使用数の方が圧倒的に多かった。また、女性話者の場合、友人関係では同性より異性である男性に多用されている。

日本語はジェンダーによる言語使用の差が大きく、男性ことば・女性ことばが存在していた。性差が最も顕著であったのは人称代名詞において、特に男性による「君」、「お前」の使用であった。これに対し、「姓+サン」は男女に関係なく使われている点で性差が見られなかった。

社会言語学的観点から待遇度と関連付けて人称代名詞の使用実態を見ると、日本語の人称代名詞は話し手と聞き手の人間関係に影響されるところが大きい。どのような人称代名詞を用いるかによって、両者の人間関係や聞き手に対する位置づけを推測することができる。更に、同じ話し手、聞き手の会話でも場面や話し手の感情、暫時的な心理変化、呼格的用法と代名詞的用法によって使用される対称詞が異なっている。また、年齢の上下関係と地位関係が拮抗する場合、年齢の上下関係より社会地位関係に密接に関係している実態も明らかになった。

参考文献・引用

- 1) 池上秋彦(1984)「体言の敬語法」 鈴木一彦・林巨樹(1984)『研究資料日本文法 9－敬語編』 pp. 225~250 明治書院
- 2) 井出祥子(1982)「待遇表現と男女差の比較」『日英比較講座－文化と社会－』第5巻 pp. 111~148 大修館書店
- 3) 宇佐美まゆみ(2006)「ジェンダーとポライトネス－女性よりポライトなのか？」『日本語とジェンダー』 pp. 21~37 ひつじ書房
- 4) 遠藤織枝(2003)「人気ドラマの話しことばに見る性差 - TV ドラマ『ビューティフルライフ』の文字化資料から－」『ことば』21号 pp. 13~23
- 5) 小川早百合(2004)「話し言葉の男女差-定義・意識・実際－」『日本語ジェンダー学会誌』4号
- 6) 尾崎喜光(1998)「生徒たちはどう呼ばれたいと思っているか」『日本語学』17(9) pp. 37~40 明治書院
- 7) 金丸芙美(1993)「人称代名詞・呼称」『日本語学』12(5) pp. 109~117 明治書院
- 8) 菊地康人(1997)『敬語』講談社
- 9) 国広哲弥(1990)「呼称の諸問題」『日本語学』9(9) pp. 4~7 明治書院
- 10) 小林美恵子(1993)「世代と女性語－若い世代の言葉の『中性化』について」『日本語学』12(6) pp. 40~47 明治書院
- 11) 小林美恵子(1997)「自称・対称は中性化するか」『女性の言葉』現代日本語研究会編 pp. 40~47 ひつじ書房
- 12) 小林美恵子(1998)「学校の呼称-女性教師の呼称「〜クン」を中心に-」『日本語学』8月号 pp. 32~35 明治書院
- 13) 小林美恵子(1999)「自称、対称代名詞とその省略－映画『女人四十』にみる－」『ことば』21号 pp. 163~169
- 14) 小林美恵子(2000)「対称詞の諸相-TV テレビドラマ『ビューティフルライフ』に見る-」『ことば』21号 pp. 24~36
- 15) 斉藤紀代子(1999)「二人称代名詞と敬意表現－日英語対照研究」『梅花女子短期大学研究紀要』第34号 pp. 1~12
- 16) 寿岳章子(1979)『日本語と女』岩波書店